

# 北社会ニュース 第40号

2008年2月18日

発行者：鈴木壮夫

北社会会員の皆さん、4年前・2004年の2月18日をご記憶でしょうか。青山先輩に代わって私達5人が世話役をお引き受けした最初の北社会でした。偶然でしたが当日は「第218回」、2月18日という日付とともに強く記憶に残っております。当日の日記には43名参加、再スタートを祝し“雨か嵐か”と“校歌”を斉唱したと書いています。先月の北社会ニュースでもお願いしましたが、より価値があり、参加して良かったと感じる「北社会」にするには会員皆様の当事者意識が不可欠です。講師の紹介、運営方法等々会員の義務とと思ってご協力をお願いします。

(1) 男子：39人→28人 女子：27人→38人 二高・推薦入試合格者発表

2008年度の推薦入試合格者が2月7日発表され、母校は共学初年度の昨年と同数の66人が合格したが男子が11人減り、女子が11人増えた。今年の実験者は163人、各々の人数は不明ですが、男子が多数を占めたにもかかわらずの結果でした。推薦入試は定員320名の約20%、一般入試の学力検査は3月6日、12日合格者発表とのこと。尚、今春から共学化の宮一女（宮城一高）・理数科に男子3人（女子29人）が合格。

(2) 本日、第259回北社会

講師：遠山文雄氏（高13回）東海大学教授 工学研究科 航空宇宙学専攻

演題：「大学発に衛星開発時代」ー産学連携と地方の躍進に見る工学教育ー

概要：「もの作り教育」が叫ばれる中、中小企業と大学、特に学生を主体とする衛星の開発が大学・地域ぐるみで過熱してきた。宇宙工学の教育現場からの現状と問題点を探る。

(3) 来月、3月18日開催・第260回北社会

講師：阿部 孝氏（高27回）IBM BC サービス（株）

演題：インターネット+携帯の安心、安全な使い方

(4) 二高応援団復活

2年間未組織の応援団も昨年9月の選挙で応援団長が信任され復活したことは昨年11月・北社会ニュース第38号で紹介しました。その初エールの模様が柏葉校長先生より青山先輩に伝えられました。青山先輩へのお手紙を転載します。

『元旦の恒例行事であります、ラグビーの対一高定期戦、16名中10名が1年生という若いチームでありましたが、昨年に続き見事な勝利を収めることができました。また、昨年9月に復活した応援団幹部の初エール、会場であった新春の一高グラウンドを二高一色に染め上げてくれました。思わず涙が出てしまうような見事な復活でした。』校長先生のこの熱心さが新生二高を支えていると感謝しましょう！

仙台二高・高1 1回

東京ピンピン会にご出席の皆様

貴会世話人・鈴木様よりご紹介いただいた後藤です。

我々が高校三年生に進級してから50年という記念すべきこの年に、大勢の方がピンピンしてお元気にお集まりになられ、誠におめでとうございます。

我々一高でもイレブン会という同期会が地元・仙台にあり、定期的な会合を開催しておりますが、関東在住者で別途「こぶし会」という名称で年に4回ほど集まっております。貴ピンピン会様も同様と思いますが、会ではいつもズ～ズ～弁で語り合い、当時の仙台に想いを馳せております。

私は三年生の時に応援団長を務めておりましたが、私が仙台を思い起こすときはいつも「評定河原」での貴校との定期戦です。高校総体の開会式でのエール発声も、もちろん思い出に残っている一つではありますが、やはり評定河原での定期戦に尽きます。

入学間もない一年生に早弁を食べさせて、昼休みのベルとともに定期戦に向けて行った応援練習の成果を見せるのが、定期戦での最大の見せどころでした。試合中の応援合戦は、試合展開に合わせてそれなりに結果を出せたのではないかと考えておりますが、一番の思い出は試合終了後の校歌斉唱とエールの交換です。

我々の在学中は毎年負けておりましたので、「あな～とう～と、あな～うる～わし」といつも貴校が先に校歌斉唱・エール発声をされました。我が一高の校歌もなかなか味わいのあるものですが、夕闇せまるスタンドに響き渡る貴校校歌はいつも胸に沁み、それだけに今でもあの光景とともに忘れずに記憶のなかにあるのだろう、と思っております。負けた悔しさを忘れさせてくれるような、実に清々しい歌詞とメロディで、我々に贈られたエールと共に正に青春の思い出そのものです。

学校の周りも仙台の町中もすっかり変わってしまいましたが、あの時代の評定河原での思い出は今も変わらずに心の中にあります。懐かしいかぎりです。

本日のピンピン会でも校歌が歌われることと思いますが、今回は懐かしがっている者がいることを思い起して頂き、あの当時の評定河原の光景を胸にして斉唱していただければ、と思えます。

〃 フレーフレー 二高、フレーフレー ピンピン 〃

平成20年1月29日

仙台一高・高1 1回生

後藤 克紀

同期の一高・応援団長の我々11回生へのエールを拝読、目頭が熱くなりました。  
そして、青春時代に想いを馳せて、初めてフレーフレー 一高とエールを贈りました。